専門職業化の問題

(37年7月19日講演)

E.C. ヒューズ

例年夏京都で開催されるアメリカン・セミナーの社会学の講師として訪日されたヒューズ (Everett Cherrington. Hughes) 教授は京都のセミナーでの講義に先立って，社会学部の方々と親しく話をしたいといって7月19日来学された。ヒューズ教授は1897年の生れであるから本年は65才に達せられている方であるが，非常に元気で夫人とともに来学され午前10時から学部会議室でアメリカ社会学の最近の問題の一つである専門職業 Profession の問題について講演された。要旨は次のとおりである。

「近代社会の発展にともなって，どこの国に於ても高等教育をうける人の比率が著しく増加してきている。そしてこうした高等教育をうけた人々の能力を活かしたり，または必要とする職業もその数をましている。こうした近代社会における高等教育普及の著しい発展と高等教育を必要とする職業の増大の傾向を一口にいって専門職化 Professionalization の傾向といってよい。このような Professionalizaton から生ずる問題として医学部の学生を例にとって話をすすめてみよう。シカゴ大学で行ったアメリカの医学部の学生を調査した結果によると，学生たちは実社会に出たらすぐ役に立つ知識を得たいと考えて勉強するが，教授側は実際に当ってどの場合にもすぐ簡単に適用できるような知識とか技術などはないのだから，基礎的原理をしっかり勉強するようにすすめている。原理的なことをよく勉強していれば応用は段々に拡大されていくと教授たちは考えている。そしてそれに基いて教授たちはそれぞれの専門領域の勉強が第一で，それさえやれば他のことは知らなくてもよいという態度で教授するが，そういう点に学生は中々ついていけないし，迷うことが多い。このような教える側と受講する側とのずれというか対立というかこういう問題が Profession の問題として研究されるべきことである。しかしこういったからといって学生が教授を尊敬していない訳ではない。むしろ学生の大部分は非常に教授を尊敬している。しかし大部分の医学生は教授たちと同じ途にすすみ，教授たちと肩をならべて競いあうことができるようになろうとは思っていない。こうした領域にはまだ未開拓の問題が多く残されている。日本のプロ野球選手などについての調査などもなされてよいのではないか。」

ヒューズ氏略歴と主要業績

1897年 Chio 州で生れる。Ohio Wesleyan 大学を卒業後，1928年シカゴ大学で学位をうける。その後，McGill 大学．シカゴ大学はじめ多くの大学で教鞭をとったが現在はブランディスBrandeis 大学教授で．1962年度アメリカ社会学会会長をつとめている。

主要著書 Outlines of Sociology (R. E. Park, A. B. Hollingshead, H. Blumer, E. B. Reuter & R. Fuller との共著)；French Canada in Transition；Rencontre de Deux Mondes；Where People Meet；Racial and Ethnic Frontiers (夫人 H. M. Hughes と共著)；Men and Their Work；Twenty Thousand Nurses Tell Their Story (夫人及び Irwin Deutscher と共著)；Race. Individual and Collective Behavior (E. T. Thomson と共編)